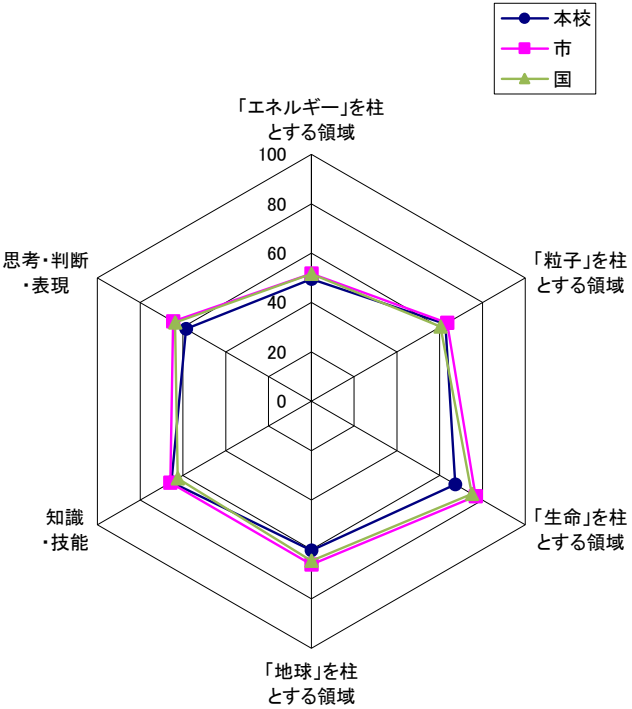


宇都宮市立桜小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	49.5	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	62.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	67.3	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	60.4	66.1	64.6
観点	知識・技能	65.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	58.6	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○光の性質を基に日光の進み方を考える問題では、県や国の平均正答率を3ポイント程度上回っている。 ●自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題が見られる。	・学習において自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して改善し、自分の考えをもつという学習活動を多く取り入れていく。実験の見直しをし、新たに追加した場合は、手順を書くなど、ノート記録についても指導していく。 ・学習を通して得た知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考えさせられるように助言したり、2つ以上の事象を関連させて考えるような課題を多く出題したりしていく。
「粒子」を柱とする領域	○実験器具の名称(メシリンダー)を理解しているかを問う設問では、県や国の平均正答率を20ポイント以上上回っている。 ●実験器具の正しい扱い方に課題が見られる。	・実験をともなう学習活動では、実験器具の扱い方を確認する場を設定し、実験器具の正しい扱い方の理解の定着を図る。 ・実験の結果をもとに考察する場面において、結果を追及したり、発想を広げたりできるような問いかけをする。また、考えを文章で表現できるよう支援していく。
「生命」を柱とする領域	○昆虫の体のつくりを理解しているかを問う設問で、県の正答率とほぼ同じで、国の平均正答率を2ポイント程度上回っている。 ●観察して得られた情報を比較することに課題が見られる。	・身近な生き物について実験や観察などの体験的学習の場を設け、科学的な見解を高められるよう指導していく。 ・考えや根拠を記述する力を向上させるために、実験や観察に対する考察などを記述する場を設けていく。
「地球」を柱とする領域	○「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」かを問う設問の平均正答率は、国の平均正答率を3ポイント程度上回っている。	・疑問を解決するための実験方法を考え、予想を立てて実験を行う。結果をもとに分析し、さらに確かめたいことについて追加で実験できるようにしていく。 ・身近な自然現象に目を向け、発見や探究を重ねていくよう、問いかけや助言をしていく。